

1. 調査の目的

ウェットランド鳥類調査では、灰塚ダムの「知和ウェットランド」一帯に生息する鳥類について継続的に調査しています。

2. 調査の実施状況

(1) 調査の実施日

今年度の秋季調査は冬鳥が越冬のために渡来する時期に合わせて設定しました。

調査時期	月 日
春季	平成20年5月26~28日
初夏	平成20年6月7~9日
秋季①	平成20年10月10日~12日
秋季②	平成20年11月9日~11日
冬季	1月実施予定

(2) 調査の方法

一定の調査地点から観測し、定点から死角になっている場所については任意に移動しながら出現した鳥を記録しました。



調査区



朝・昼・午後は双眼鏡、望遠鏡を使って調査



夜間は主に鳴声を頼りに調査

3. 調査結果

今回の調査では、合計11目22科55種を確認しました。確認した鳥類種のうち、ミサゴ、ハイタカ、オシドリが「重要な種^(※)」に指定されています。ウェットランド内の水域では水鳥(カモ類)の種数、個体数が増えています。草地にはアオジ、オオジュリン、アトリなどといった冬鳥が渡来していました。留鳥であるエナガとシジュウカラの混群、カワラヒワの群れ、冬鳥であるアトリの群れなど、鳥たちが群れて行動する様子をたくさん目にする事ができました。また、一年中ウェットランドに生息している留鳥も、冬羽にかわり、春夏とは異なる姿になりました。夜間の調査では、サギ類がウェットランド内でねぐらをとる様子を確認しました。

※「重要な種」とは…学術的に、あるいは環境保全上保護すべき種のこと、種の保存法、文化財保護法、環境省のレッドリスト、広島県のレッドデータブック等に記載されている種が該当します。

■冬を越す鳥たち

水鳥



マガモ (11/9)
海、湖沼、川、池など様々な水域で見られます。

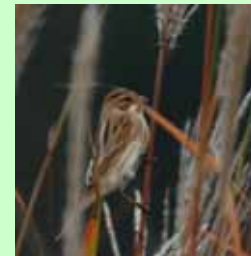


ヒドリガモ (11/9)
湖、川、内湾などに飛来します。陸に上がって植物や藻類を食べることもあります。

陸鳥



アオジ (11/10)
草地ややぶ、ヨシ原のほか、公園などにもいます。



オオジュリン (11/9)
ヨシ原でヨシの葉や皮の中にある小さな虫を食べています。



アトリ (11/10)
冬は数十~数百羽の群れになり田んぼや河原で種子などを食べています。

■一年中見られる鳥たち



キセキレイ (11/10)
冬羽にかわっています。水辺を好みます。



ホオジロ (11/11)
冬羽にかわっています。草地や低木林などにいます。



サギ類 (11/10)
ウェットランド内の樹木でねぐらをとっていました。

■重要な種



ミサゴ (11/11)
主に魚をエサとする猛禽類です。ウェットランドを狩場にしているようです。



ハイタカ (11/9)
小鳥などを狩る猛禽類です。調査中にセグロセキレイを狩ろうとしているところを目撃しました。